

Live Explosion 2012 "MEDIUM"

ライブ・エクスプロージョン 2012 "メディアム" 2012年6月8日(金) 18:00-23:00
東京キネマ倶楽部 東京都台東区根岸1-1-14 入場料:2,500円

かつて19世紀にはエリック・サティやピカソらの溜まり場だったパリのシャ・ノール、20世紀初頭にはダダの発祥の地となったチューリッヒのキャバレー・ヴォルテール。2012年6月8日、現代日本のアーティスト達による時代精神表明の場が、東京・鷗谷の歴史あるグランドキャバレーに出現します。実験音楽からニュージャズ、サウンドアート、映像、パフォーマンスまで、8つのアーティスト／ユニットがそれぞれの表現の時空を展開する、一回性の濃密な空間を共有しにいらしてください。

デコラティブなインテリアを生かした会場では、渋谷の「はすとばら」店長 Gyuによるオリジナリティあふれる食とお酒と共に、ショーの進行をゆっくりお楽しみ頂けます。

主催:東京キネマ倶楽部 企画:Explosions 問い合わせ先:live@explosion-tokyo.com



クリストフ・シャルル Christopher Charles

1964年フランス生まれ。武蔵野美術大学映像学科教授(メディアアート、サウンドアート他)。内外空間を問わず環境に浸透され得るインスタレーションやコンサートを制作。CD:「undirected」シリーズ。パブリックアート作品:成田国際空港第一ターミナル中央アトリウム常設サウンドインスタレーションなど。



稲田光造 Kozo Inada

完全に確立したコンセプトのもとに、プログラミングにより音響心理に基づき音を構築する電子音響作家。staalplaat(アムステルダム)、V2_Archive(ロッテルダム)、SELEKTION(フランクフルト)、Sonoris(ボルドー)、Digital Narcis(大阪)、Room40(オーストラリア)など国内外の数々のノイズ・電子音楽の老舗レーベルより作品をリリース。また2000年を皮切りに、ヨーロッパを中心に世界各地でサウンドインスタレーションやパフォーマンスを展開している。



fragments

田中邦和(sax) tatsu(bass) ヤマサキテツヤ(drums). We play fragments of NEW JAZZ, fragments of NEW WAVE, fragments of NEW JAM.
<http://www.myspace.com/fragments27>



アズビー・ブラウン Azby Brown

1985年より東京在住。イェール大学にて彫刻と建築を学び、1988年に東京大学大学院工学部建築修士号を修了。その分野はアート、建築、サステナビリティ、神経科学と広範に渡っている。今回は音声の入力によって制御されるビデオ作品で、中川敏光(電子音楽)、白井美穂(美術家)と共に参加。



OKIBIKI (沖啓介+Biki)

「実験的にダンサブル」をキーワードに、エレクトロニクス系のアーティスト／ミュージシャンの沖啓介とミュージシャンのBikiが作ったバンド。もともとはバンドではなくセッションとして国内外で演奏していたが、ある日コンサートのアナウンスで次は「オキビキ」と紹介され、バンド名にした。もっぱら八広Highlyや桜台poolといった東京カルチャーの辺縁系なサイトで演奏している。



表現 (Hyogen)

権藤真由(アコーディオン/Vo)、佐藤公哉(ヴァイオリン/Vo)、古川麦(ギター/Vo)、園田空也(ベース/Vo)。様々な地域、時代の音楽を身体に落とし込み、深い欲求に従ったプリミティブなミュージックを模索するバンド。「夢見のワーク」とも言うべき即興的なリハーサルから音をつむぎ、ホールやライブハウスはもとより、美術館や教会、古書店などでユニークな演奏活動を行っている。現在までに「hyogen」「旅人達の祝日」の2枚のアルバムを発表している。<http://sound.jp/hyogen/>



どくろオールスターズ (D・A・B) Dokuro All Stars

どくろオールスターズは、「自由」という概念を巡って考え、行動する集団だ。「自由」とは何か?それは勝手気ままに行動することや、己の小さな物語や感情を表出することではない。「自由」とは、絶対的な他者からの問いかけに対して考える、その態度そのものなのだ。絶対的な他者は、私たちの行為すなわち生そのものの全てを意味化してくれる。どくろオールスターズは、「自由」の意味やその状況を間接的、直接的に教え伝える伝道師だ。メンバー:赤羽史亮、磯邊一郎、岡田聡、尾竹隆一郎、栗原那津子、栗原良彰、藤森史紀、星野武彦、松田修



大西香澄 Kasumi Ohnishi

1988年 広島生まれ 2012年現在 東京芸術大学美術研究科修士課程在学中 巨大なバルーン、ノイズ音楽、フラッシュ、生活家電を用いて、インスタレーション、パフォーマンスを多数制作。



大野慎矢 Shin-ya Ohno

音楽屋。2003年より大正時代の詩人・山村暮鳥の作品に曲をつけて歌い始める。2005年からブルガリアを訪れガイダ(民俗バグパイプ)の習得やひとと文化の在り方を見ている。現在「PO3 DANKA」「mamaclio」でのグループ演奏や他分野とのコラボレーション、ソロ演奏などの活動を展開している。



西原 尚 Nao Nishihara

2011年東京芸大修士課程先端芸術表現専攻修了。explosion tokyo(西麻布)や「新・港村」(横浜)にて展示。音の研究、音の美術、音の記録研究、踊りの音、楽器制作などの活動を通じてできるだけ多くの音を体験すべく努力している。「サウンドアート」(フィルムアート社/2010)を木幡和枝、荻開津広と共に共訳。

